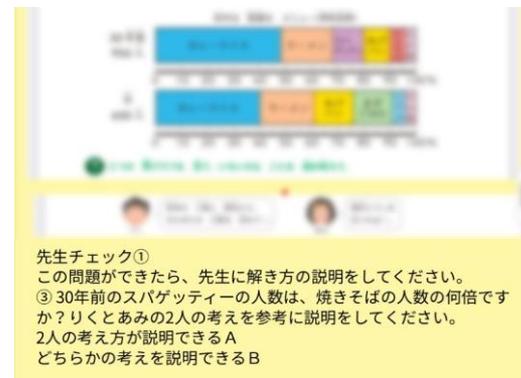


【取組内容】 算数科における学び方の変容と働き方改革**【現状と課題】**

区が行っている学力調査の結果より、算数科における習熟に差が見られた。また、本校教員の4分の1が、教員歴3年未満の若手教員であり、日々の授業準備に負担感を感じており、児童主体の学びに向けた授業改善が進まなかった。そのため、算数科の学習指導について、GIGA端末を活用し、教員への負担を減らしつつ、習熟の差がある児童が協働的に学び合いながら、それぞれの課題に応じた個別最適な学びも一体的に行うことができる、児童主体の学習に重きを置いた授業づくりを行う。

【取組内容】

教員が作った学習シートを活用し、それぞれの学力に応じた学習に取り組むことができるようにした。また、学習支援ソフトにより一人一人の学習進捗を把握できるようにして、教員が学習支援をしやすい環境づくりを行った。児童は、分からなければ教員に聞いたり、友達と協働して取り組んだりするなど、児童が選択して学ぶことができるようにした。学習シートの中には、定期的にミッションとして協働して学習する問題を設定し、児童同士で説明することで考えを言語化し、アウトプットする活動を行った。また、協働して活動する際に、相手からサインをもらうなど、ミッションの中にゲーム性を取り入れて、児童が学習に取り組みやすいように工夫した。これらの学習カードを、教員間で相談して作り、同じものを共有することで、若手教員への教材研究や授業の在り方を指導しながら、時間を短縮して授業準備をすることができると考えた。



【取組内容】 算数科における学び方の変容と働き方改革**【児童の変容】**

児童に学習方法や学習形態が変わったことから違和感を感じていないかアンケートをとった。その結果、自分のペースでどんどん進めるからよい。分からないことを友達に聞けたり、先生に聞きにいける空気感があったりしてよい。また、友達とコミュニケーションを取れたり、早く終わっても誰かを待たなくてもよかったりというところがいいという意見があった。しかし今までは教えてもらっていたことを自分たちで解決して行かなきゃいけないところに不安があるという感想もあったので、改善を重ねていく。

【教員の変容】

自分たちで学び合う時間をつくり、意欲的に学習に取り組める授業づくりを意識するようになった。また、授業を教員同士で一緒に作り上げることで学びになった。

